

(例)

2. 生物的環境の状況

(1) 動物

1) ほ乳類

今治市のほ乳類の生息状況は、「第2回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和56年)によると図3-1-2-1に示すとおり、愛媛県で調査対象となった大・中型ほ乳類7種(ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ)のうち、イノシシ、タヌキ及びアナグマの3種が生息するという情報を得られた地域に該当する。

また、事業計画区域を含む周辺地域においては、イノシシ、タヌキの2種が生息するという情報を得られた地域にあたる。

さらに、「今治郷土史 現代の今治」によると、上記確認種以外にノウサギやチョウセンイタチも確認されている。

2) 鳥類

愛媛県における鳥類の状況は、「愛媛の野鳥 観察ハンドブック～はばたき～」(愛媛新聞社、平成9年)によると、303種の生息が確認されており、そのうち、98種は県内で繁殖している、またはその可能性を有している。

また、「今治郷土史 現代の今治」によると、事業計画区域に近い一丁池において38種の鳥類が確認されており、確認された種の中には、「鳥類レッドリスト」(環境庁、平成10年)において準絶滅危惧に分類されているチュウサギ、及び「第1回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和51年)において主要野生動物に指定されているカワセミが含まれている。

3) 両生類・は虫類

愛媛県における両生類・は虫類は、「第2回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和56年)によると、6種の学術上重要な両生類・は虫類の生息状況が示されている。このうち、生息が確認されている種は、ブチサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオ、ハコネサンショウウオ及びタワヤモリの4種であり、オオサンショウウオ及びオオイタサンショウウオは、生息が確認されていても人為的移入の可能性があり、あるいは確認個体が他種である可能性も示唆される等、不明確な点が多い。

なお、本事業計画区域を含む周辺区域においては、これらの種の生息は確認されていない。

4) 昆虫類

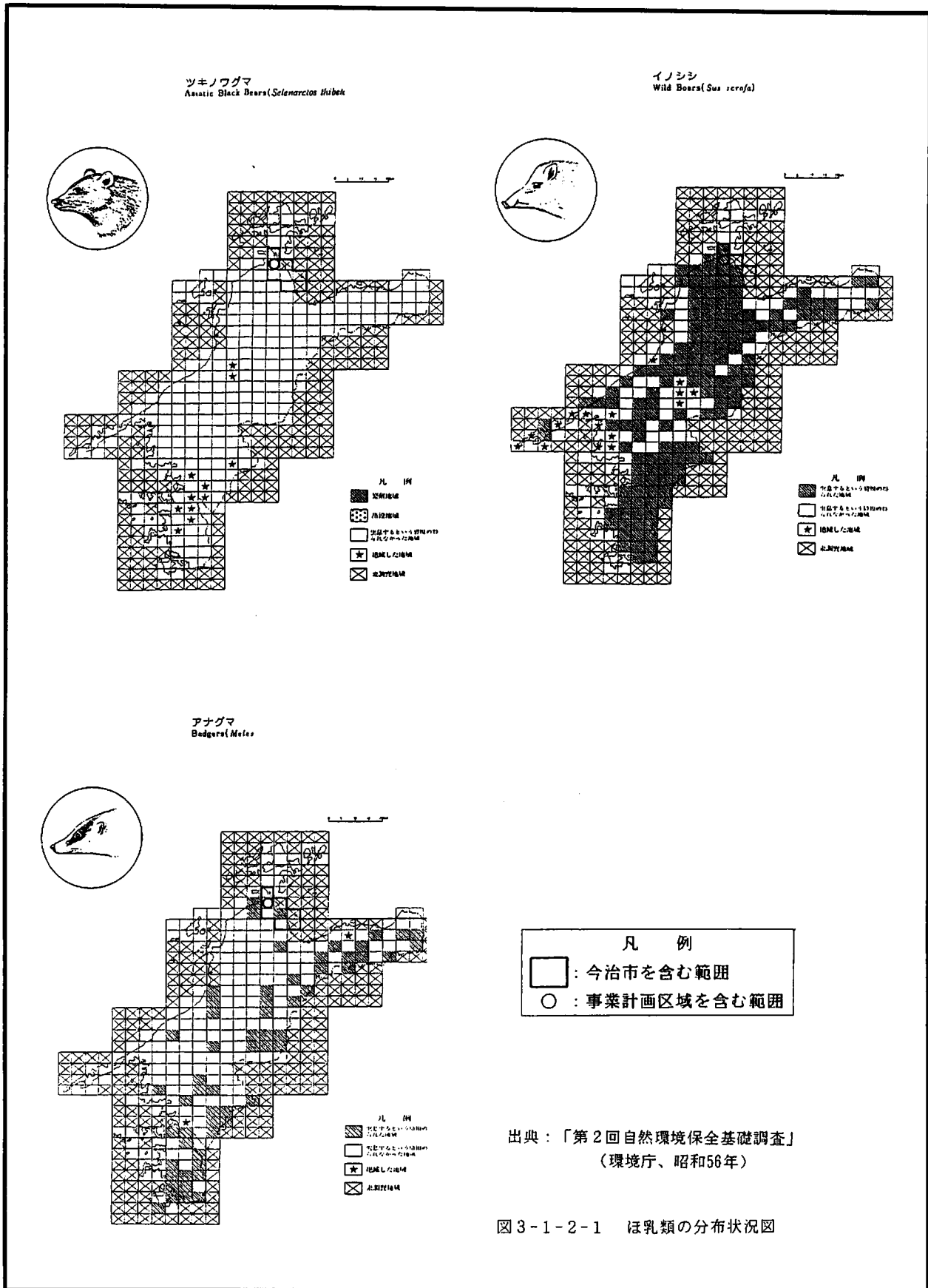
愛媛県における昆虫類の生息状況は、「第2回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和56年)によると、ムカシトンボ、オオムラサキ、ゲンジボタル等計69種の指標・特定昆虫類についての生息状況が示されている。その中には、タガメやゲンゴロウ類等のように生息環境の悪化に伴い、県内では絶滅した可能性が高いものも上げられている。

また、「今治郷土史 現代の今治」によると、今治市において、152種の昆虫類が確認されている。

さらに、「第2回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和56年)では、図3-1-2-2に示すとおり、事業計画区域に比較的近い今治市北部と、南部地域において指標昆虫類に選定されているハルゼミが、また、今治市沖の小島では、特定昆虫類のイソジョウカイモドキの生息が確認されている。

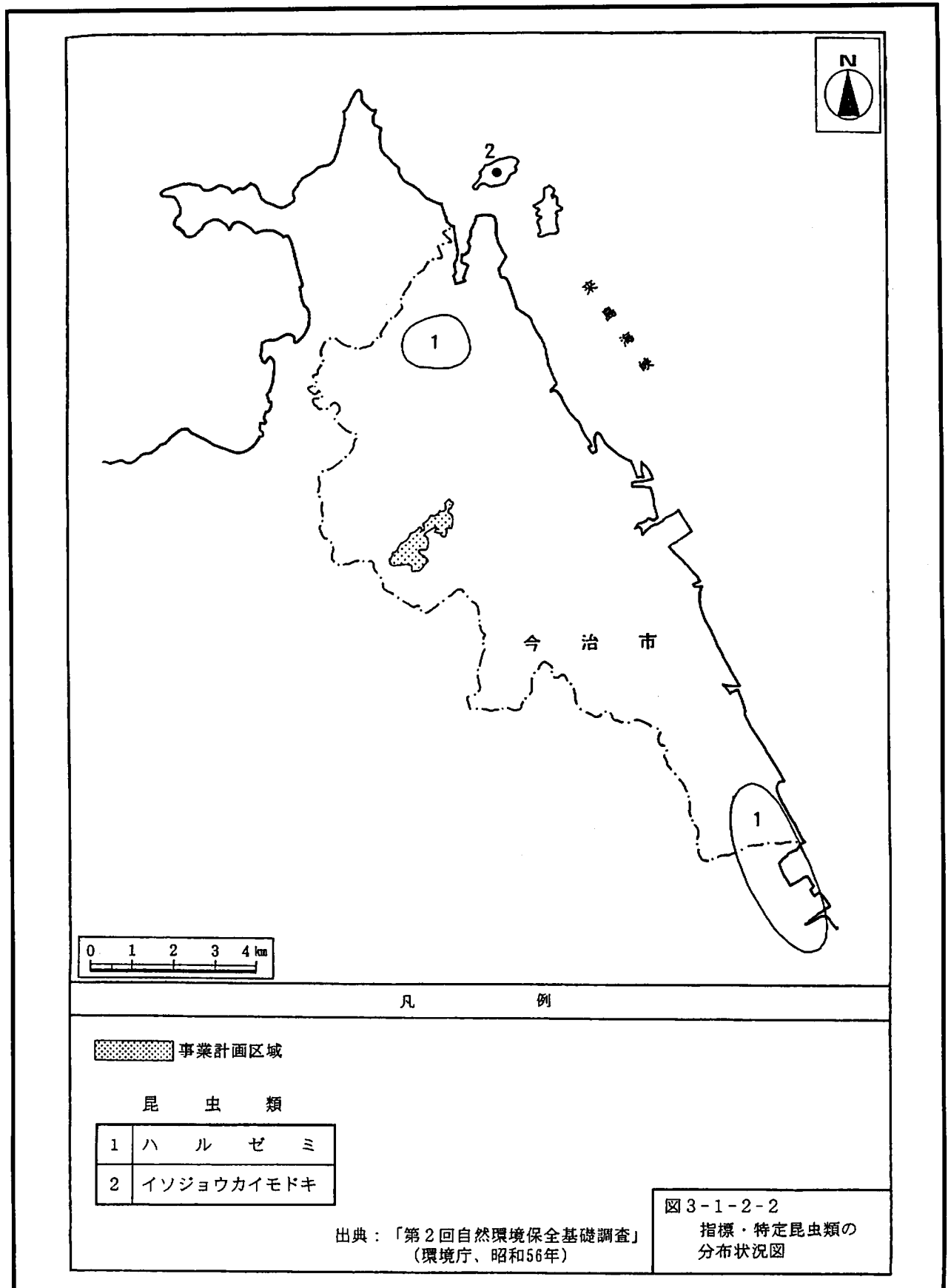
資料：今治新都市第1地区土地区画整理事業に係る環境影響評価書 平成12年4月 愛媛県

(例)



資料：今治新都市第1地区土地区画整理事業に係る環境影響評価書 平成12年4月 愛媛県

(例)



資料：今治新都市第1地区土地区画整理事業に係る環境影響評価書 平成12年4月 愛媛県